

かずさの博物誌

カンムリカイツブリ

～日本最大のカイツブリ～

文・写真／成田篤彦

2013.11.20



©成田篤彦

▲カンムリカイツブリの幼鳥
＝2013年11月16日 木更津市

日が差したので、大急ぎで仕事を済ませて、小櫃川河口近くの川岸にいった。その日は大潮で、午後二時過ぎには満潮になる。潮が押し寄せると沖にいたシギやチドリが岸辺近くに寄ってくる。

双眼鏡で川と岸辺を見ながら、「今日は何もいないか?」と思った。しかし、河口付近で、コサギが数羽、魚を捉えていた。正面を見ると、水面に長い首と頭が見えた。「カワウ?」と思った。しかし、それにしては首が白く、細長いし、ヘビのようにくねくねと動いている。

「何だろう。」急いで、岸壁から砂州におりた。しかし、何も見えない。満ちて来る潮と流れる下る川水が合わさり、水かさが満ちあふれているだけであった。「流れる棒でもみたのか?」と自分の眼を疑った。

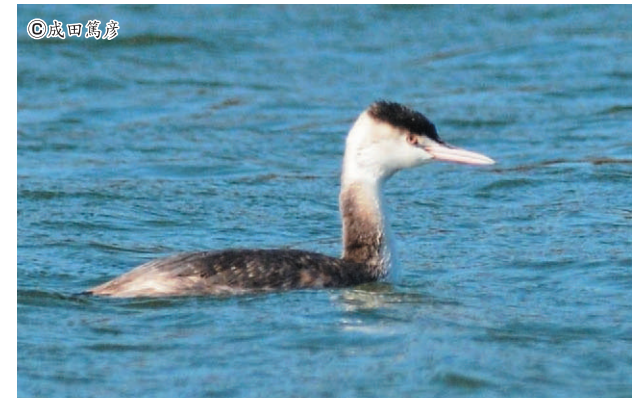
すると、小さな頭と白く長い首がはっきりと浮きあがってきた。急いで、シャッターを切ったが、勢いよく潜った後の水の輪だけが写っていた。また、浮きあがってきたが、眼とくちばしが、曲げた首の陰になって、見えない。しばらく、同じ場所に浮いていたが、眠っているらしい。その時、船が通過し



©成田篤彦

▲カンムリカイツブリ(右)とカイツブリ(左)
＝2013年11月16日 木更津市

さらに、南方へ渡ったのか?と思った。実は小櫃川では万年橋付近で時々見られる。一回だけ夏羽を見ている。しかし、いつも雨が降りそうな曇空、遠く

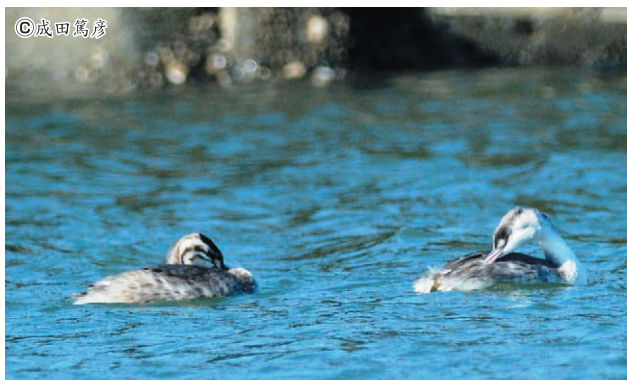


©成田篤彦

▲冬羽のカンムリカイツブリ＝2013年11月16日 木更津市

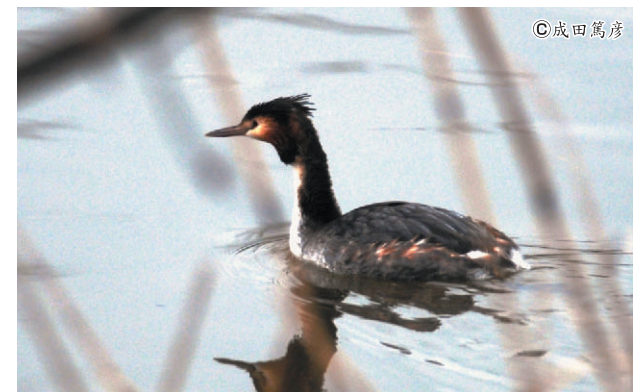
た。それをきつかけに、彼は?上流に向かって泳ぎ始めた。顔に陽が当たった時にシャッターを切った急いで、液晶画面をみた。細長く鋭いくちばし、ダチョウのように小さく三角形の頭、顔から白首にかけて、黒い縞模様がある。今まで見なかったが、カンムリカイツブリの幼鳥では?と思った。この縞模様はダチョウやカイツブリの幼鳥にもある。これらの鳥たちが共通の祖先から進化してきたのか?と思わせる。

彼?はさらに上流へ向かって泳いでいった。するともう一羽、カンムリカイツブリがいた。頭が黒、顔や首は白で、縞模様がない。冬羽だと思った。そして、二羽が一緒に泳ぎ始めた。やはり、先ほどの鳥はカンムリカイツブリの幼鳥に間違いはないと思った。彼らは、しばらく泳いでいたが、河口へ向かって移動し、姿を消してしまった。翌日、行って見たがいなかった。



©成田篤彦

▲冬羽のカンムリカイツブリ(右)と幼鳥(左)
＝2013年11月16日 木更津市



©成田篤彦

▲夏羽のカンムリカイツブリ＝2008年2月18日 木更津市

memo

カンムリカイツブリ

から見ているので、今回、近くで、見るい場所ではシャッターを切れたので、十分に満足した。

全長四六～六一cm。カイツブリ類では日本では最大。特に首が長い。日本では冬鳥として、多くはシベリアから全国の海岸や内湾や河口域、大きな湖にやってくる。青森県と琵琶湖で少数繁殖する。繁殖期は四月～九月。念のいった求愛儀式で有名。かずさでは大きな河川や堰、河口などで秋～春に少数見られる。主に魚類を捕食する。東京湾奥では二千～四千羽が越冬する。春先に繁殖羽になった大きな群れが見られることがある。県指定一般保護生物。

参考文献 千葉県レッドデータブック 二〇一一。千葉県の自然誌七巻。